

有富慶二

GDP世界第2位の経済大国——ここに至るまで戦後の仕組みが、日本の復興に非常に効果的に機能したことは間違いないでしょう。機能したと過去形で書いているのは、裏返すと今は機能していないということ。かつては経済成長を支えた仕組みも、戦後60年以上が経過し、時代や社会環境が急激に変化する中で、ほころびが出てきました。われわれ企業も国のガナバンスも、絶え間なくイノベーションに挑戦しつづけることが必要なのです。

率的な政府」「官から民へ」「国から地方へ」のように国民に分かりやすい表現を使いながら、構造改革に挑戦してきました。この改革のエンジンとなったのが、経済財政諮問会議の存在であり、「骨太の方針」を中心とした政治主導の流れを作れたことだったと思うのです。安倍政権の発足以降、守旧派による巻き返しの状況が生まれてきてい

日本の競争力復活にむけて 自己革新を

副代表幹事
会員委員会委員長
(2006年度 諮問委員会 委員長)
ヤマトホールディングス 取締役会長



るのではないかと懸念が、諮問委員会の委員の方々にありました。そこで、経済同友会として今なきがでるかを考え、「骨太の方針」の応援団として、改めて我々の主張を整理してメッセージを3月に提言しました。現代は、望むと望まざるにかかわらず、グローバルな競争を避けて通れません。日本が競争力を失い沈んでいってほならないのです。安倍政権初となる「骨太の方針」では、構造改革の遂行に対する現政権の明確な意志を示すべく、具体的な数値目標と改革工程表を明示すべきです。

今取り組まれている構造改革は、日本という国がどうあるべきかを改めて問い直し、抜本的に国のあり方をイノベーションする挑戦です。昨年末に発表された将来人口推計によれば、2040年には支える側と支えられる側の比率が1対1を超過する未曾有の人口構成となります。そうした状況において、日本が経済成長を実現していくためにどうあるべきか。今年の参議院選挙で各政党はマニフェストをもって国民に問うべきです。我々の投じた一石が、改革の推進に少しでも貢献できればと心から願っています。

Contents

001 ● 巻頭言 有富慶二	日本の競争力復活にむけて自己革新を
002 ● 代表幹事 就任挨拶	「新・日本流経営の創造」
005 ● 特集	2007年度 通常総会
011 ● 委員長インタビュー	多様な人材の活用委員会 加賀見俊夫 金融・資本市場委員会 林野宏 人口一億人時代の日本委員会 森田富治郎 地球環境・エネルギー委員会 数土文夫
015 ● リレートーク 河野栄子	春に感じた多様化
016 ● 経済同友会最前線	景気定点観測アンケート調査結果 他
025 ● 2007年度委員会委員長等	
027 ● 同友会スケッチ	2007年4月の記録と6月の予定
029 ● 新入会員紹介	2007年4月20日現在の入退会者
030 ● 私の思い出写真館 種村良平	黒潮にカジキを追って